

基調講演

小児医療の現状と課題 ~宮城県立こども病院の経験から~

地方独立行政法人 宮城県立こども病院院長 林 富氏



小児看護の動向 ~チーム医療の観点から看護師の役割拡大を考える~

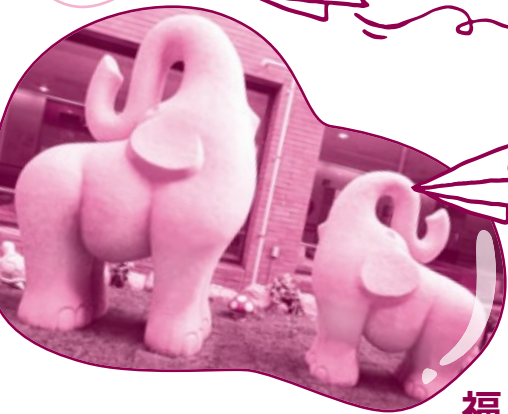
福岡大学医学部看護学科教授 尾首 睦美氏

福岡都市圏における周産期医療の現状と今後の展望

九州大学病院総合周産期母子医療センター長 和氣 徳夫氏
(九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学教授)

福岡市立こども病院にのぞむ

福岡地区小児科医会会長(しんどう小児科医院院長) 進藤 静生氏



福岡市健康フェア2010



小児医療の

福岡市立こども病院・感染症センター開設30周年記念講演会 (第28回小児医療研究基金記念講演会)

現状と課題

入場無料

平成22年

日時 **10月9日 土**

13:30~16:30 / 開場13:00



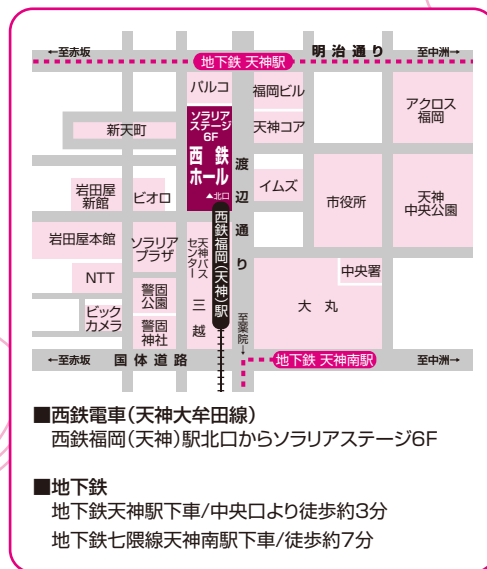
会場

西鉄ホール

福岡市中央区天神2丁目11番3号
ソラリアステージビル6F

定員

先着 **300名**
(申込不要)



■西鉄電車(天神大牟田線)
西鉄福岡(天神)駅北口からソラリアステージ6F

■地下鉄
地下鉄天神駅下車/中央口より徒歩約3分
地下鉄七隈線天神南駅下車/徒歩約7分

お問い合わせ先

福岡市立こども病院・感染症センター 事務局総務課
電話 092-713-3160 FAX 092-713-3120



主催：地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市立こども病院・感染症センター
共催：福岡市



講演要旨

小児医療の現状と課題 ～宮城県立こども病院の経験から～

地方独立行政法人 宮城県立こども病院院長 林 富氏

宮城県立こども病院は、「すべての子どもにいのちの輝きを」を基本理念に平成15年11月に東北地区唯一の周産期小児医療専門施設として開院し、平成18年4月に地方独立行政法人に移行しました。当院は「病院らしくない病院」を目指しており、療養生活の質と環境を充実させるための「成育支援局」には様々な専門職（保育士、CLS、臨床心理士、MSW、看護師、ボランティアコーディネーター、院内学級教師）が属しています。

診療基盤の充実と就労環境の改善、地域医療施設との連携を重視して病院運営に努め、成果と共に多くの課題もあります。特に救急、周産期、在宅療養支援、医療安全・感染対策、アレルギー、若手の育成等についての当院の取り組みについて報告いたします。

小児看護の動向 ～チーム医療の観点から看護師の役割拡大を考える～

福岡大学医学部看護学科教授 尾首 睦美氏

今日の小児を取り巻く環境は、往年のそれとは比較にならないほど複雑化し、かつ困難な状況にあります。小児医療への影響も少なくありません。その一端を担う看護職として、「より良き医療の提供は医師やコメディカル等の他職種との連携の上に成り立つものである」と認識しております。各職種がその責任を果たすためには何が必要でしょうか。

平成20年度、「日本学術会議健康生活科学委員会看護学分科会」では、「看護職の役割拡大が安心と安全な医療を支える」と提言しております。子どもをケアする医療人として、また近年の子ども観、子どもの権利を主体とした医療の在り方に視点を置き、改めて看護職としてその役割を考えていきたいと思えます。

福岡都市圏における周産期医療の現状と今後の展望

九州大学病院総合周産期母子医療センター長（九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学教授）和氣 徳夫氏

福岡都市圏における周産期医療の現状について母体搬送に焦点をあてて調査しました。

福岡都市圏では1か月に50～55例の母体搬送が行われており、最初の依頼施設に搬送できたのは約60%で、残りは第2から第6番目の施設で受け入れられていました。搬送依頼理由は胎児要因2/3、母体要因1/3で、多くはNICUでの治療が必要と考えられた例でした。受け入れ不可能の理由はNICU満床、産科満床が大半を占めていました。受け入れ先決定までの時間は平均17分で、1時間以上を要した例が3.5%ありました。以上のことから福岡都市圏における周産期医療が円滑に実施されておらず、妊婦・新生児のいのちの安全が完全には保障されていないと言えます。このような状況を是正するためにもこども病院をさらに充実させ、市民に安心・安全な医療を提供できる体制を早急に構築することが必要です。

極めて厳しい周産期医療環境の中、九州大学病院、こども病院、産業医科大学病院が連携し、環境省管轄のもとに、将来の日本を担うこどもの健康と環境に関する疫学調査を今年度から開始しました。今後の周産期医療の発展に大きく貢献できる事業であると考えています。

福岡市立こども病院にのぞむ

福岡地区小児科医会会長（しんどう小児科医院院長）進藤 静生氏

こども病院開院10周年の記念講演会の折に、当時丹々会副会長の井上賢太郎先生が「こども病院に望む」という題で講演をされています。今回は、丹々会「新こども病院構想委員会」で、新病院に対する要望書を作成、上申しましたので紹介します。その要旨は次の通りです。

- 1)採算性が低い小児医療に対する地方独立行政法人化後の継続的な財政支援
- 2)他の小児病院と比較して見劣りしない十分なスペースを有する病室等の設計
- 3)現病院で行われている高度医療継続のために、後継者育成に配慮した人員配置
- 4)新病院の構想、設計などへの早い段階からの現場スタッフの参加
- 5)小児循環器医療、周産期医療等の人的および設備の充実・整備
- 6)優秀な医師やコ・メディカルの各地からの参集を目指した宿舎や処遇などの改善
- 7)病児の搬送およびその家族の移動のため交通アクセスの改善

